

# 名古屋大学大学院医学系研究科（総合保健学専攻）

## Web 大学院説明会

ご挨拶「本研究科の目指すもの」

総合保健学統括専攻長 寶珠山 稔（ほうしやまみのる）



本年度開催予定でありました大学院説明会は、COVID-19の感染拡大予防のためにWebでのご案内となりました。本研究科大学院への進学を考えていらっしゃる方々にはたいへんご不自由をおかけいたします。本研究科は本年度より大学院の組織改編によって1専攻（総合保健学専攻）となり、次世代の医療人材育成をめざす新体制で進み始めました。国内外の医療保健を牽引する大学院を皆さんとともに築いていきたいと願っています。

\*\*\*\*\*

本学医学系研究科（保健学）は2002年に設置され、2012年の大学院重点化にともなって医療保健学の研究と教育の充実に努めてきました。一方、本学が2018年に指定国立大学法人に選ばれ、世界最高水準の教育研究活動を展開しようとする中で、本研究科（保健学）にも日本の保健医療研究をリードし、国際的にも競争力のある研究の推進がより一層求められるようになっていきます。本研究科（保健学）では、専門分野を越えた融合的保健医療研究の推進を検討すると同時に、「国際水準の研究と英語教育」および「情報科学リテラシ教育」の必要性が高くなる中で、それらを飛躍的に強化すべく大胆な大学院組織改革を行いました。

新たな大学院体制は、2018年からの準備期間を経て2020年4月からスタートしました。その体制は、①領域を越えた領域融合的研究教育推進、②情報科学を取り入れた保健医療分野の研究教育体制、③研究ユニットによる集約的研究力強化、を三本柱としています。

①については、医療専門職別に設けていた3専攻（看護学専攻、医療技術学専攻、リハビリテーション療法学専攻）を1専攻（総合保健学専攻）とし、博士前期課程は48名から70名へ、博士後期課程は17名から20名へと定員を増やすなど、組織の統合と拡充を行いました。②については、国立大学保健学系大学院としては初めて情報科学領域の研究講座「ヘルスケア情報科学」を設け、医療専門領域での情報科学の研究教育を推進する中核組織としました。③の研究組織体制として少人数の研究ユニット単位（19ユニット）を導入し、集約的な研究によって今まで以上に研究力を高めていける体制としました。

大学院教育では、専門領域研究の推進とともに来るべき情報化社会における医療見据え、専門領域の研究者が情報科学の研究基盤技術を修得できるよう支援していきます。養成する人材像として掲げる「情報リテラシを有するヘルスケアサイエンティスト」（図）とは、医療分野や大学で研究を行うだけでなく、産業界や行政においても、医療と情報科学に関する知識をもって、これまでに

ない人材として活躍できるものと考えています。このような人材の強みは、医療者や医療現場の視点から具体的な情報技術や機器機能、医療情報の内容や特徴を理解していることにより、医療における新たな課題の発見やこれまで想定されていなかった問題の解決にあたって力を発揮できる点にあります。本研究科大学院で、本研究科の培ってきた専門領域の研究力に加え、新しい研究技術を取り入れたこれまでにない医療保健領域の研究に存分に挑んでいただきたいと思います。そして本研究科を巣立った方々の活躍が、今後とも国内外が直面する保健医療の難題を解決していくものと期待しています。

